

発達科学部平成 17 年度年次計画報告書

この資料は、国立大学法人評価委員会が決定した項目について、発達科学部として定めた平成 17 年度年次計画に関して、その実施状況をまとめ、自己評価したものである。

なお、「自己評価」欄に記載している評価記号は、国立大学評価委員会が定めた以下の基準による。

- 「年度計画を上回って実施している」
- 「年度計画を順調に実施している」
- 「年度計画を十分に実施できていない」
- 「年度計画を実施していない」

発達科学部平成17年度年次計画報告書

平成17年度年次計画	自己評価	自己評価判断理由(実施状況等)	根拠資料
大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置			
1 教育に関する目標を達成するための措置			
・中期目標期間中に達成を目指す具体的な計画を公表する。(H16-)(発達科学部)		各学科・コースの教育理念・目標・受け入れ方針を記載したパンフレットを発行した。	・パンフレット「神戸大学発達科学部2005」 ・「学生便覧2005」
・社会人入試、編入学試験のAO導入を含む再検討。(H16-17)(発達科学部)		社会人特別入試について面接・口頭試問に重点をおいて実施した。なお、編入学についても面接・口頭試問に重点をおいて実施した。	・入試委員会議事要録
・AO入試の人間行動学科、人間環境学科への導入、社会人入試、編入学試験の改革。(H16-17)(発達科学部)		人間環境学科へのAO入試を実施した。社会人、編入学試験については面接・口頭試問に重点をおいて実施した。	・入試委員会議事要録
・学科・履修コースの再編。(H17)(発達科学部)		平成17年度から学科・履修コースを再編した。	
・平成18年度からの全学共通教育体制の見直しにあわせ、外国語教育のあり方について検討を行う。(H17-)(発達科学部)		十分な検討はなされていない。	
・1年次生の必修科目「発達科学演習」、「発達科学への招待」の内容を、「導入教育」「転換教育」の質をもったものに一層充実させるための検討と実施(H16-)(発達科学部)		教務委員会において検討し、従来1単位であった「発達科学演習」を平成17年度から2単位とした。また、FD講演会を実施し、本年度担当教員からユニークな取り組みについて、学部構成員に紹介した。また、3モジュールからなる「発達科学への招待」を前期に実施した。テキストとして「キーワード人間と発達」を刊行した。	・FD実施資料 ・教務委員会資料 ・関係HP ・「キーワード人間と発達」
・平成18年度以降、1年次において高校教育からの移行を円滑にし、かつ自ら学ぶ態度を養うために少人数教育の拡充を図る(H17-)(発達科学部)		1年次生の必修科目「発達科学演習」の担当者を増員し、平成17年度から1教員あたりの学生数を最大10名とした。	・教務委員会資料
・入学生及び各学年におけるガイダンスの在り方等について検討し、学生が授業の選択を自主的かつ適切に行うことができるように工夫する。(H16-)(発達科学部)		毎年度、教務委員会及び学生委員会において、ガイダンスのあり方について、検討し実施している。	・教務委員会、学生委員会議事録 ・ガイダンス実施要項
・シラバスの改善・充実、Webサイトへの掲載(H16-)(発達科学部)		平成17年度より紙媒体の授業概要(シラバス)を廃止し、ホームページ上に全面的に移行し、用語による検索を可能にした。現在全学のシステムを利用し、休講通知、教室変更等をホームページ上で提示している。	・ホームページ ・教務委員会議事録
・新たなカリキュラム体系の導入(H17)(発達科学部)		平成17年度から学科・履修コースを再編し、新たなカリキュラムを導入するとともに、新カリキュラムの見直し、微調整を行った。	・学生便覧 ・教授会資料
・インターンシップの実習内容の充実、教育効果の測定のための検討作業(H16-)(発達科学部)		現在平成17年度発達科学部インターンシップ報告書を作成中であるが、インターンシップの教育効果等の評価を実施した結果、概ね良好な評価結果が得られた。また、学生の総括レポートなどを通じて、実施年次を重ねることにより、全般的な実習内容の充実がうかがえる。	・平成17年度発達科学部インターンシップ報告書
・社会人と留学生に対するカリキュラムの整備を進める。(H16-)(発達科学部)		社会人入試専門委員会において入試制度のあり方について検討中。社会人入試制度の改革と連動して時間割の検討を行う予定。	・社会人入試専門委員会議事録
・非常勤講師体制の見直し。コマ単位での非常勤講師の活用の方策の検討(H16-)(発達科学部)		引き続き非常勤講師体制の見直しを行うとともに、ゲストスピーカー制を継続して実施している。(平成17年度前期18名、後期24名)	・教授会及び教務委員会議事録
・学科再編に伴う人間表現学科の教室の部分的改修、人間行動学科の体育館の改修をはじめとする教室及び設備の改善(H16-)(発達科学部)		B棟106,108,202,212教室の改修(壁、天井、建具等の塗装及び床シート貼)を行うとともに、体育館床改修等の営繕関係費の要求を行った。	・写真
・鶴甲2団地の施設長期計画書に基づく施設計画の年度ごとの実現(H18-)(発達科学部)		概算要求を行った。	・概算要求資料
・学習指導方法として、学生と教官との双方向的授業の実現に向けての検討と改善(H16-)(発達科学部)		「発達科学演習」の実施方法の改善によって、教員と学生とのコミュニケーションが一層図れるようにした。双方向授業の実施状況について調査を実施し、調査結果をまとめた上で、双方向授業を実現するために進めている工夫・努力などの事例を学部構成員に紹介した。	・教授会資料 ・教務委員会資料
・年1回のFD研修会の実施(H16-)(発達科学部)		平成17年4月にキャリア・サポートに関するFDを1回、9月に「発達科学演習」に関するFDを1回、計2回開催した。	・教授会議事録 ・FD実施資料
・教員相互の授業方法の改善策についての相互交流を図る。(H16-)(発達科学部)		平成17年9月「発達科学演習」に関するFDを実施して教員の相互交流を図った。また、双方向授業の実施状況について調査を実施し、調査結果をまとめた上で、双方向授業を実現するために進めている工夫・努力などの事例を学部構成員に紹介した。	・FD実施資料 ・教授会資料
・学生による授業評価の実施と自己評価委員会「教育評価部会」の立ち上げと検討(H16-)(発達科学部)		学生による授業評価は、平成16年度に実施した結果を担当教員に還元した。平成17年度も同様の調査を実施した。教育評価のあり方については検討中。「発達科学演習」の授業評価を行い、結果を分析中である。	・アンケート調査用紙
・全学的に教育活動に関する評価基準を策定し、教育の質の改善を図る。(H17-)(発達科学部)		教育活動の評価項目、基準を検討中。	

発達科学部平成17年度年次計画報告書

平成17年度年次計画	自己評価	自己評価判断理由(実施状況等)	根拠資料
・オフィスアワー制度あるいはメールを利用した学生と教官との連絡体制の整備のあり方を検討し、全教員への徹底を図る。(H16-)(発達科学部)		オフィスアワーは43%の教員が実施しており、実施していない教員についても学生からの要望があれば、随時対応している。学生便覧に、全教員のメールアドレスを記載した。	・中期計画委員会資料
・編入学生に対する相談体制を検討する。(H16-)(発達科学部)		編入学生の相談体制については、現在コース主任教員又は学生担任が対応しており、より効果的な体制を検討中である。	・中期計画委員会資料
・就職支援等に関する具体的方策(H16-)(発達科学部)		4月よりキャリアサポートセンターを開設し、各種セミナー及び講座の開催、運営などを行った。セミナーは、企業就職向けセミナー7回、理系セミナー3回、低学年セミナー10回、教員採用対策セミナー6回、特別セミナー3回の計29回であった。少人数対応の講座は、9月より「自己分析」「エントリーシート対策」「面接対策」として定期的に開講した。相談業務も定期的に行った。また、電子媒体としてHPの公開、センターメールマガジンの継続的発行をした。なお、本センターの利用者は、4月から1月までに約300名、そのうち相談者は170名であった。	・ホームページ ・各種資料 ・キャリア・サポートセンター規程
・キャリア・サポートセンター設置(H17)(発達科学部)		4月よりキャリアサポートセンターを開設し、各種セミナー及び講座の開催、運営などを行った。セミナーは、企業就職向けセミナー7回、理系セミナー3回、低学年セミナー10回、教員採用対策セミナー6回、特別セミナー3回の計29回であった。少人数対応の講座は、9月より「自己分析」「エントリーシート対策」「面接対策」として定期的に開講した。相談業務も定期的に行った。また、電子媒体としてHPの公開、センターメールマガジンの継続的発行をした。なお、本センターの利用者は、4月から1月までに約300名、そのうち相談者は170名であった。	http://csc.h.kobe-u.ac.jp/
・キャンパス環境の整備拡充に関する具体的方策(H16-)(発達科学部)		安全衛生委員会による巡視を行い、改善を図っている。また、職員による環境美化作業ならびに安全設備の使用訓練(消防訓練)を実施した。	・安全衛生委員会議事録 ・同委員会によるファカルティ通信
・学生のアメニティー環境整備に向けての検討、実施(H17-)(発達科学部)		学生アメニティー整備として、食堂内の購買部移設後の環境面(床シート貼、建具取替)、厨房内床改修及び校舎内トイレの改修を急務として営繕費を要求中である。	
・社会人入学生が学びやすい時間割りの検討を行う。(H16-)(発達科学部)		社会人入試専門委員会において入試制度のあり方を検討中であり、社会人入試制度の改革と連動して時間割の検討を行う予定。	・社会人入試専門委員会議事録
・教育問題、学生生活上の問題等に関し保護者との連携の方策を検討する(H16-)(発達科学部)		育友会との懇談会を毎年度実施。	・実施要項
2 研究に関する目標を達成するための措置 ・研究推進委員会によるプロジェクト研究の設定、シンポジウムの開催を推進する。(H16-)(発達科学部)		プロジェクト研究経費の制度を整備し、H17年度に申請があったもののうち7件を採択した。本年度内にそれらの報告書を取りまとめることとなっている。また、発達科学シンポジウムを平成18年2月に開催した。	シンポジウム配付資料
・学部予算編成において、研究推進プロジェクト経費の設定を一層具体化する。(H16-)(発達科学部)		プロジェクト研究経費(発達科学研究推進特別経費)ならびにシンポジウム開催経費を計450万円設定した。	・教授会資料 ・募集要項
・採用人事を講座単位としてではなく、学部の戦略的観点から実施する体制を整備する。(H16-)(発達科学部)		採用人事を、講座単位から人事委員会による学部単位とする体制にしている。	・人事委員会規則
・神戸大学を取り巻く一般社会との連携を強化するとともに、それぞれの学問分野の特質を生かし、国際機関、地方自治体及び関連機関、文化・芸術関連機関、TLO(技術移転機関)、NPO(非営利組織)をはじめとする地域の諸組織等との多彩な連携を構築し、研究成果公表の場(フォーラム開催等)を設け、それによって研究成果を広くかつ有効に還元する。(H16-)(発達科学部)		発達支援インスティテュート・ヒューマンコミュニティ創成研究センターにおいて、自治体、学校、NPOとの連携を深め、学外研究員を委嘱して、社会との連携強化を図っている。また、「社会貢献レポート」をweb上で公開するとともに、旧灘区役所跡地に「のびやかスペースあーち」を開設し、地域と密着した活動を展開している。	・ホームページ ・各種資料
・発達科学部国際シンポジウム又は総合人間科学研究科国際シンポジウムを、継続的研究会の上に開催していく。(H16-)(発達科学部)		大学院再編の関係で検討を中断している。	・開催要項など
・人間科学研究センターを総合人間科学研究科前期課程発達科学系の附属施設である「発達支援インスティテュート」へと発展的に転換する。(H17)(発達科学部)		「発達支援インスティテュート」へと発展的に転換させた。また、同ヒューマンコミュニティ創成研究センターにおいて、自治体、学校、NPOとの連携を深め、学外研究員を委嘱して、社会との連携強化を図っている。また、旧灘区役所跡地に「のびやかスペースあーち」を開設し、地域と密着した活動を展開している。	・各種資料
・各教官の社会貢献活動に関する報告書を発行して、社会との連携の一層の強化を図る。(H16-)(発達科学部)		社会貢献レポートは現在24名の教員が執筆し、年度内には25名の執筆が予定されている。さらに、現状でのweb掲載の内容を校正し、出版作業が進行中である。	
・施設や設備をはじめ大学が保有する資源を活用し、地域社会や産業界が行う調査研究への支援や共同活動を一層充実する(H17-)(発達科学部)		「人間科学研究センター」を「発達支援インスティテュート」へと発展的に転換させた。また、同ヒューマンコミュニティ創成研究センターにおいて、自治体、学校、NPOとの連携を深め、学外研究員を委嘱して、社会との連携強化を図っている。また、旧灘区役所跡地に「のびやかスペースあーち」を開設し、地域と密着した活動を展開している。	
・ヒューマン・コミュニティ創成研究センターにおける各部門の活動を通じて、自治体、企業、学校、NGO、NPOなどの各種組織との連携の上になった各種活動を展開する。(H17-)(発達科学部)		ヒューマンコミュニティ創成研究センターにおいて、自治体、学校、NPOとの連携を深め、学外研究員を委嘱して、社会との連携強化を図っている。また、旧灘区役所跡地に「のびやかスペースあーち」を開設し、地域と密着した活動を展開している。	

発達科学部平成17年度年次計画報告書

平成17年度年次計画	自己評価	自己評価判断理由(実施状況等)	根拠資料
<p>・オープンキャンパスを充実させ、高大連携を一層発展させる。(H16-)(発達科学部)</p>		<p>平成17年度は、学部説明会2回、出張大学説明会4校、高校生に対する公開授業5校、模擬授業1校、AO入試説明訪問高校80校、その他高大連携として高校から要請があれば積極的に応えている。</p>	<p>・各種資料</p>
<p>・教員寄付金によって運営している「国際交流関係運営資金」の一層の積極的活用を図り、研究者の相互交流、学生の海外への派遣を推進する。(H16-)(発達科学部)</p>		<p>国際交流関係運営資金の活用は、昨年度11件、今年度現在10件。研究者の相互交流及び学生への海外派遣が、推進された。また、本年度より学生の海外での学会発表への援助事業を始めた。</p>	<p>・「2005年度発達科学部年次報告書」(現在編集作業中)</p>
<p>・国際交流委員会学術交流専門部会による学術交流協定の締結の具体化作業をすすめる。(H16-)(発達科学部)</p>		<p>アテオネ・デ・マニラ大学(フィリピン)と学術交流協定を締結するとともに、現在EDITH COWAN大学(オーストラリア)ならびにオロンゴン大学(オーストラリア)との協定締結に向けての作業が進行中である。</p>	<p>・実施細則</p>
<p>・単位互換を前提とした学術交流協定の拡充を図る(H17-)(発達科学部)</p>		<p>単位互換を前提とした学術交流協定について検討中である。</p>	
<p>3 附属学校に関する目標を達成するための措置</p>			
<p>・附属明石校「カリキュラム開発研究センター」を中心に、生涯学習社会における学校教育専門家の育成システムを検討する。(H16-)</p>		<p>開発指定研究の成果の一つである「学びの一覧表」をもとに、各校種で継続した実践を行い、カリキュラムの作成を行った。特に、研究コラボレーション委員との連携を保ちながら研究を進めるように検討した。</p>	<p>・平成14年度研究開発実施報告書 ・研究紀要33(中学校) ・研究紀要39(小学校) ・研究紀要34(幼稚園) ・研究紀要2(カリキュラム開発研究センター)</p>
<p>・附属明石校においては、学部教員と共同して、幼・小・中の12年一貫教育を基盤にした「カリキュラム開発研究センター」等での「キャリア発達支援を含む社会を創造する子どもの育成を目指したカリキュラム開発」を進める。(H16-)</p>		<p>・開発指定研究の成果の一つである「学びの一覧表」をもとに、各校種で継続した実践を行い、カリキュラムの作成を行った。特に、研究コラボレーション委員との連携を保ちながら研究を進めるように検討した。 ・臨床心理士(スクールカウンセラー)を配置し、児童、生徒等が抱える心の問題を解決し、不登校対策への対策を図ろうとした。</p>	<p>・平成14年度研究開発実施報告書 ・研究紀要33(中学校) ・研究紀要39(小学校) ・研究紀要34(幼稚園) ・「幼少連携の研究」資料 ・研究紀要2(カリキュラム開発研究センター) ・カウンセリング日誌附属明石校園</p>
<p>・附属住吉校においては、学部教員と共同して「国際教育センター」を中心とした「国際教育推進プログラム」を研究・開発し、小・中9年一貫の教育体制のなかで試行するとともに、日本語カリキュラムに関しては、「平成16年度における補習授業校のための指導案(日本語力判断基準表及び診断カード)の研究作成に係る事業」を文部科学省から委託を受け進めており、その成果を踏まえて日本語カリキュラムの作成にかかる。(H16-)</p>		<p>・英語、生活科、総合学習などを通じ、「国際社会」が意識できる学習を組み込んでいる。また、改組した国際教育センターを中核に「小中一貫教育で実現する国際社会に生きる資質・能力の育成」の実現に向け、小中学校合同研究を開始した。 ・大学からの外国人研究者の帯同児童を2月から受け入れた。 ・国際教育センターに新組織(センター運営委員会)を設置。 ・小・中学校合同10のプロジェクトの推進(プロジェクト研究企画書) ・研究会「国際社会を切り拓くエンパワーメントと学校づくり」の開催(6月23日) ・小学校30周年中学校35周年帰国学級設立記念行事の開催(2月3日)</p>	<p>・国際教育センターカリキュラム ・プロジェクト研究企画書 ・英語プロジェクト基礎編 ・日本語カリキュラムプロジェクト基礎編 ・外国人児童生徒募集</p>
<p>・附属住吉校「国際教育センター」を中心に日本語、英語カリキュラムの開発の年次計画を検討する。(H16-)</p>		<p>16年度に引き続き文部科学省より委嘱された事業で、日本語カリキュラムの研究を続けホームページでの公開も視野に入れた具現化を図る。英語カリキュラムは、「確かな英語力を培う小中一貫カリキュラムの作成」を研究テーマとした小中学校合同の英語カリキュラムのプロジェクトを立ち上げカリキュラム試案を検討している。</p>	<p>・補習授業のための指導案の研究作成に係る事業報告書 ・日本語初期指導カリキュラム ・英語カリキュラム(小)</p>
<p>・附属養護学校においては、近年の特別支援教育の要請に応じて、障害児・者の生涯にわたる発達を地域社会との交流をより充実させて研究を実施する。具体的には親子教室の実施、特別支援教育コーディネーターの配置と教育相談及び地域巡回活動等の活動を実施する。特別支援教育関連の研究成果を公刊し、障害児教育研究協議会を開催する。(H16-)</p>		<p>・教育実践カルテの作成、障害幼児親子教室の実施、特別支援教育コーディネーターの配置と教育相談及び地域巡回活動等の活動を計画どおりすすめた。 ・特別支援教育関連の研究成果を7月22日に青木書店より「コミュニケーションの関係がひらく障害児教育-神大附属養護学校の教育実践」として公刊した。 ・第17回障害児教育研究協議会を11月19日に開催した。</p>	<p>・小・中・高教育実践カルテ綴り ・3月総括教員会議記録 ・「コミュニケーションの関係がひらく障害児教育」(青木書店)宣伝材料 ・第17回障害児教育研究協議会要綱</p>

発達科学部平成17年度年次計画報告書

平成17年度年次計画	自己評価	自己評価判断理由(実施状況等)	根拠資料
<p>・以上の計画を達成するために、学部・附属交流会議、学部・附属コラボレーション委員を通じて連携を強めていく。(H16-)</p>		<p>【附属住吉校】 ・学部附属交流会議を隔月で開催。 ・学部附属コラボレーション委員9名を設定。 ・平成17年度科学研究費補助金(奨励研究)が7件採択された。 ・平成18年度科学研究費補助金(奨励研究)を昨年より4件増の20件申請した。 ・学部附属交流会議を隔月で開催し情報交換をすると共に学部附属コラボレーション委員会を引き続き設定し小中合同で10のプロジェクト研究を推進した。 【附属明石校園】 平成17年度科学研究費補助金(奨励研究)が4件採択された。 平成18年度科学研究費補助金(奨励研究)を昨年より3件増の24件申請した。 【附属養護学校】 学部・附属コラボレーション委員と連携し、11月19日に開催した第17回障害児教育研究協議会の内容や、附属養護学校の研究の進め方について協議を行った。</p>	<p>【附属住吉校】 ・奨励研究計画調書一覧 ・学会発表一覧 ・プロジェクト研究成果 【附属明石校園】 ・平成17年度科学研究費補助金(奨励研究)交付申請書 ・平成18年度科学研究費補助金(奨励研究)計画調書</p>
<p>・生涯学習社会における学校教育の在り方について、学部・附属コラボレーション委員との連携促進を強化して、学部教員と附属学校教員の共同研究を促進する。(H17-)</p>		<p>【附属住吉校】 ・学部教員との共同研究であるプロジェクト研究を、小学校は6月10日に、中学校は6月30日に教育研究会を開催した。 ・18年度の小中合同プロジェクトに向けて研究組織を再編している。 ・小中合同プロジェクト研究の「小中一貫教育で実現する国際社会に生きる資質・能力の育成」をテーマに研究協議会を平成18年6月9日(金)に開催する予定である。 【附属明石校園】 開発指定研究の成果の一つである「学びの一覧表」をもとに、各校種で実践を通しながら、12ヶ年一貫型のカリキュラム作成を行った。特に、研究コラボレーション委員と連携した研究を継続して取り組むことが出来るよう検討した。 【附属養護学校】 ・11月19日に第17回障害児教育研究協議会を発達科学部と附属養護学校の共催として、実施した。 ・発達科学部教員が「県下の特別支援教育」に関するシンポジウム、教育相談(発達障害児、不登校)を担当した。</p>	<p>【附属住吉校】 ・学部附属共同研究教育研究発表会要項(小) ・学部附属共同研究研究紀要(小) ・研究部基礎編 【附属明石校園】 ・平成14年度研究開発実施報告書 ・研究紀要33(中学校) ・研究紀要39(小学校) ・研究紀要34(幼稚園) ・研究紀要2(カリキュラム開発研究センター) 【附属養護学校】 ・第17回障害児教育研究協議会要項</p>
<p>・学校教育及び学校運営の在り方に関わって、地域での先導的な役割を果たし、各教育委員会、NPO、NGO等と連携して積極的に地域社会と交流する。(H17-)</p>		<p>【附属住吉校】 ・教育研究発表会を6月に開催し、授業研究発表会として国語科を11月8日に、算数科を11月24日に開催した。近畿地区国立大学附属学校連盟の音楽部会を12月13日に開催した。(小学校) ・国語科総合単元学習授業研究発表会の開催(11月8日)(住中) ・NPOやJICAによる講師の招聘によるオープンアクティビティの実施(2月3日) 【附属明石校園】 ・幼稚園では「幼稚園教育を考える研究会」を年3回開催した。 ・小学校では、2月2日に明石市立教育研究所と合同で、「学習実践交流会」を開催した。 ・初任者、5年次、10年次研修用の研修プログラムのパンフレットを作成し、県、市郡町教育委員会に配布した。また、研修者を幼稚園・小学校・中学校がそれぞれ受け入れた。 【附属養護学校】 ・「明石障害者地域生活ケアネットワーク」には継続的に参加し活動した。 ・明石市の「発達障害児(者)のライフステージを通じた支援体制を構築するための検討会」に参画し、「療育ハンドブック(案)」の作成に協力した。また、「地域支援と高齢・障害の垣根を超えた社会保障を考える会」(NPO法人、神戸市)の設立に参画した。</p>	<p>【附属住吉校】 ・学部附属共同研究 教育研究発表会のご案内(小) ・国語科総合単元学習のご案内(小) ・算数教育を語る会のご案内(小) ・近畿地区国立大学附属学校連盟小学校音楽部会のご案内(小) ・日本教育大学協会第91回会報より「大学・学部と附属学校とのプロジェクト型研究による連携」 【附属明石校園】 ・「学習実践交流会」案内状及び資料や記録 ・「幼稚園教育を考える研究会」案内状及び資料や記録 ・研修案内のパンフレット 【附属養護学校】 ・「地域支援と高齢・障害の垣根を超えた社会保障を考える会」(NPO法人、神戸市)の設立趣意書 ・明石市の「療育ハンドブック(案)」</p>

発達科学部平成17年度年次計画報告書

平成17年度年次計画	自己評価	自己評価判断理由(実施状況等)	根拠資料
<p>自己評価及び第三者評価システムを作るため、学校評価を中期目標・中期計画に沿ったものとなるよう見直しを行い、第三者評価は、学校評議員等で検討を行う。また、発達科学部年次報告書に各年度の自己点検のための活動報告を記載する。(H17-)</p>		<p>【附属住吉校】 内部評価と外部評価のシステムを構築し、学校評議員会の活用を検討していく。 【附属明石校園】 学校運営の状況等を説明責任を果たしていく観点から、中学校では昨年同様、自己評価・第三者評価を実施し、6月16日の第1回学校評議員会において意見を求めた。幼稚園や小学校においては平成18年度第三者評価実施に向けて、「評価対象・評価項目・実施方法及び時期」の検討を行っている。第三者評価については、評価結果を基に「学校評議員会」等で検討したいと考えている。 【附属養護学校】 現在作成している「自己評価点検項目」の検討と合わせて、外部評価に関する公立学校での資料を収集した。外部評価項目(保護者向けアンケート)を作成した。</p>	<p>【附属住吉校】 ・附属住吉校における中期目標・計画に対する自己点検・評価項目 ・教育反省について(小) ・学校評議員会「学校評価について」 【附属明石校園】 ・学校評議員会に関する文書・学校評価(教職員・生徒・保護者対象) 【附属養護学校】 ・保護者向けアンケート(外部評価項目)</p>
<p>・附属養護学校では、特別支援教育の要請に応えて障害乳幼児、障害者の成人教育の支援策について検討する。(H16-)</p>		<p>障害幼児親子教室については計画通り(月1回)実施し、1回に平均20組の親子が参加している。本校卒業生の実態について、卒業後の経過などを把握し整理する作業をすすめている。</p>	<p>・親子教室参加一覧</p>
<p>・多様な児童・生徒の入学を確保するため、選抜方法改善するとともに、募集説明会の回数増及び入学願書受付日の複数日化の継続、ホームページの充実など各校の教育方針の周知を図る。(H16-)</p>		<p>【附属住吉校】 ・言語、環境、表現、健康の多面的観点から選考し、多様な児童の入学を確保した。募集説明会、願書受付の回数を増やし、プレゼンテーションを工夫し教育方針を周知した。 ・中学校における受験機会の複数化を図った。 ・連絡進学の9年一貫教育の趣旨に合う試験形態の見直しを行った。 ・6年に組(帰国子女学級)児童の一般入試への門戸開放を行った 【附属明石校園】 幼稚園と小学校では、平成18年度より抽選の改善等について検討するために入学選考委員会を立ち上げ、抽選等について廃止や見直しを行った。 【附属養護学校】 ホームページでの募集要項の発表・開示を行った。学校見学会を6月13日、10月11日に実施した。参加者人数は両日で124名であった。入学説明会を10月4日に実施し、関係市町の教育委員会指導主事が出席し、募集要項を発表した。</p>	<p>【附属住吉校】 ・平成17年度第1学年児童募集要項(小学校) ・募集説明会資料 ・ホームページ資料 ・中学校入試関係資料 【附属明石校園】 ・附属幼・小・中学校における出願手続きの見直しについて ・選抜要項 【附属養護学校】 ・2006年児童生徒募集要項 ・ホームページのコピー</p>
<p>・市町教育委員会と連携して行っている「研究交流制度」を継続発展させるとともに、多様なプロジェクトを設定して現職教員の研修の充実を図る。(H17)</p>		<p>【附属住吉校】 ・教育研究発表会や授業研究会を開催して現職教員の研修の場を提供するとともに、学校現場での講師依頼や学校訪問の要請にこたえている。 ・研究協議会を開催した。(6月23日) ・国語科総合単元学習発表会の開催した。(11月8日) ・帰国学級設置記念行事の開催した。(2月3日) ・10種のプロジェクト研究における神戸大学以外の研究協力者の受け入れ。 ・派遣要請があった教育委員会及び小中学校へ講師を派遣した。 【附属明石校園】 ・初任者・5年次・10年次研修用の研修プログラムのパンフレットを作成し、県・市郡町の教育委員会に配布した。 ・「研究交流制度」については、今年も要請があり、実施した。また、それらを通して、現職教員の研修プログラムを検討した。 ・現職教員の研修については、「研究協議会」、「幼稚園教育を考える研究会」、「実践交流会」等、公開研究会を積み重ね、地域に貢献した。 ・小学校では、2月2日に明石市立教育研究所と合同で「学習実践交流会」を開催した。 ・幼稚園では「幼稚園教育を考える研究会」を年3回開催した。 【附属養護学校】 ・11月19日に発達科学部と附属養護学校の共催で、第17回障害児教育研究協議会を実施した。参加者総数は256名、北は北海道立南幌養護学校、南は沖縄県立美咲養護学校からの参加があった。テーマは「コミュニケーション的関係をひらく教育実践と特別支援教育-人として豊かに育ち合う障害児教育の追求」。内容は、公開授業、全体会、講演、分科会、シンポジウム、教育相談であった。</p>	<p>【附属住吉校】 ・講師派遣依頼書 ・国語科総合単元学習のご案内 ・算数教育を語る会ご案内 ・近畿地区国立大学附属学校連盟小学校音楽部会ご案内 【附属明石校園】 ・「附属明石校園カリキュラム研究センター機関紙 - 子午線3」 ・明石校園、カリキュラム開発研究センター研究・研修申込書綴り ・「幼稚園教育を考える研究会」案内状及び資料や記録 【附属養護学校】 ・第17回障害児教育研究協議会要項</p>

発達科学部平成17年度年次計画報告書

平成17年度年次計画	自己評価	自己評価判断理由(実施状況等)	根拠資料
<p>・危機管理マニュアルに基づく避難訓練の実施,学校評議員会での点検・評価を行うとともに,保護者及び地域の関係機関等との連携を図る。(H16-)</p>		<p>【附属住吉校】 ・緊急避難体制及び組織の点検を管理マニュアルに基づき継続しながら,具体的な不審者対応訓練や児童引き取り訓練を実施し,問題点を確認しながら改善に努めている。 ・東灘警察署連絡協議会の参加。 ・兵庫防犯協会からのメールによる情報入手とさすまた,防犯スプレー等を設置した。 ・避難訓練を実施した。 ・自動体外式除細動器(AED)を設置した。 【附属明石校】 ・教育委員会や警察との連携を深め,不審者や安全についての情報を速やかに入手できるようにし,それを直ちに保護者にも伝達するようにした。 ・不審電話への対応方法を掲示し,それを教職員に周知徹底を図った。また,警備員の訪問者に対するあり方を検討し強化した。 ・幼・小それぞれにおいて年2回防災だけでなく,安全も含めて避難訓練を行った。また,中学校は,地震による火災発生を想定した避難訓練を行った。また,年度末に防犯及び自動体外式除細動器(AED)による救急救命の研修を行った。 【附属養護学校】 ・平成13年に作成した「不審者緊急対応マニュアル」を16年度に見直しさらに今年度改善した。それにそって,地元警察,生活安全課と協力して,12月2日に不審者対応防災訓練を実施した。 ・毎月の安全点検を実施し,安全面での施設・設備の改善内容について検討を進めている。 ・通学安全対策については,通学経路の再確認と,危険箇所の点検アンケートを今年度中に実施する予定である。</p>	<p>【附属住吉校】 ・緊急時対応マニュアル 【附属明石校】 ・不審者,防災に関するマニュアル ・安全衛生委員会会議録 【附属養護学校】 ・不審者対応緊急マニュアル ・防災訓練要項 ・安全点検表</p>
<p>業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p>			
<p>1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置</p>			
<p>・中期計画推進委員会の発足(H16-)(発達科学部)</p>		<p>中期計画推進委員会を主要委員長をメンバーとして発足させ,月1回の開催をしている。</p>	<p>・中期計画推進委員会議事録</p>
<p>・学部長,評議員,学科長を中心とした新たな執行部体制のスタート(H16-)(発達科学部)</p>		<p>週1回の学部長,評議員,事務長,事務長補佐による打ち合わせ会,月1回の学科長会議,人事委員会,中期計画推進委員会を開催している。</p>	<p>・議事録</p>
<p>・経営・財務分析を行うとともに,大学予算の配分の重点化を進め,教育研究活動の活性化を図る(H16-)(発達科学部)</p>		<p>部局長裁量経費を学生アメニティー,教室の整備及び学生教育環境整備事業に配分した。</p>	<p>・教授会資料</p>
<p>2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置</p>			
<p>・学科・履修コースの再編のスタート(H17)(発達科学部)</p>		<p>学科・履修コースを再編した。</p>	
<p>3 教職員の人事の適正化に関する目標を達成するための措置</p>			
<p>・学部,学科を単位とした新たな人事の方式のスタート(H16-)(発達科学部)</p>		<p>学科・専攻運営会議,人事委員会,教授会による人事方式に改めた。</p>	<p>・学科運営会議規則 ・人事委員会規則 ・「2005年度発達科学部年次報告書」(現在編集作業中)</p>
<p>4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置</p>			
<p>・業務処理の点検を行い,費用対効果の視点から,業務の外部委託等について,具体的方策を検討する。(H16-)(発達科学部)</p>		<p>予算の効率的活用を図るため,常勤職員,非常勤職員及び委託業務全体の見直しを随時行っている。また,平成16年度~平成18年度を業務の見直し期間,平成19年度~平成21年度の3年間を実施期間として取り組んでいる。</p>	
<p>財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置</p>			
<p>1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置</p>			
<p>・科学研究費補助金,受託研究,奨学寄付金などの外部資金の増加方策の検討と実施(H16-)(発達科学部)</p>		<p>教授会等を通じて情報の徹底,記載方法の助言を行っている。奨学寄付金の手続きマニュアルを作成し各教員に対し配付した。また,寄付者に対して礼状を送付することとした。平成18年度より科学研究費補助金の不採択案件のうち,評点の高かったものに対して研究推進特別経費を支給することとした。</p>	<p>・教授会議事録</p>
<p>・競争的資金等に関する情報を提供するとともに,申請書の内容及び記載方法に対する助言等,積極的な応募支援を行う。(H16-)(発達科学部)</p>		<p>教授会等を通じて情報の徹底,記載方法の助言を行っている。</p>	<p>・教授会議事録</p>
<p>・外部資金の獲得状況を常に点検・評価し,外部資金獲得の向上に努める。(H16-)(発達科学部)</p>		<p>教授会等を通じて情報の徹底,記載方法の助言を行っている。奨学寄付金の手続きマニュアルを作成し各教員に対し配付した。また,寄付者に対して礼状を送付することとした。</p>	<p>・教授会議事録</p>
<p>・収入見合事業の実施を図る(H16-)(発達科学部)</p>		<p>心理教育相談室の相談活動ならびに講習会を実施している。</p>	<p>・心理教育相談室活動報告書 ・写真</p>

発達科学部平成17年度年次計画報告書

平成17年度年次計画	自己評価	自己評価判断理由(実施状況等)	根拠資料
2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置 ・毎年度の予算編成の基本方針会議において経費の抑制に関する方針を策定する。(H16-)(発達科学部)		管理的経費等の縮減に関する取組み指針により、教授会において理解と協力を求めた。	・教授会資料 ・教授会議事録
・印刷物のWeb化を検討し、印刷経費を削減する(H16-)(発達科学部)		シラバスのホームページ化を実施するとともに、募集要項の一部をホームページ化し、印刷経費を削減した。	・ホームページ
自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置			
1 評価の基本的な目標を達成するための具体的措置 ・評価基準の確立と評価結果に基づく改善のシステムの検討を行う。(H17-)(発達科学部) ・自己評価委員会のもとに、各種データを総合的に掌握する体制の整備を図る。(H16-)(発達科学部)		自己評価委員会で検討中。 一部のデータは収集しているが、収集すべき項目とデータの検討ならびに総合的掌握体制の整備については検討中である。	・自己点検・評価項目書
・自己評価委員会内に「教育評価部会」「研究評価部会」を立ち上げ、各種データのもとに、評価基準の確立に向けての検討を行う。(H16-)(発達科学部)		自己評価委員会内の「教育評価部会」と「研究評価部会」が各種データを収集したが、各部会において評価基準の確立については引き続き検討中である。	・自己点検・評価項目書 ・「2004年度発達科学部年次報告書資料編」
2 情報公開等の推進に関する目標を達成するための措置 ・教官の社会貢献活動の毎年度の報告書の内容を検討し、刊行していく。(H16-)(発達科学部)		社会貢献レポートは現在24名の教員が執筆し、年度内には25名の執筆が予定されている。さらに、現状でのweb掲載の内容を校正し、出版作業が進行中である。 教員の研究業績、教育業績、社会的貢献などのデータを収集している。	・ホームページ
・自己評価委員会による基礎データの集積の上で、逐次データベース化を図る。(H16-)(発達科学部) ・電子情報専門委員会、広報専門委員会による情報公開の拡充の具体的措置を検討し、実施する。(H16-)(発達科学部)		電子情報専門委員会で随時検討を重ね、ホームページの更新を継続中。また、2004年度発「発達科学部年次報告書」をweb上に公開した。	・自己点検・評価項目書 ・「2004年度発達科学部年次報告書資料編」 ・ホームページ
その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置			
1 施設設備の整備等に関する目標を達成するための措置 ・学舎検討委員会による学舎の総合的有効利用の検討をすすめる。(H16-)(発達科学部)		人間科学研究センター廃止に伴いE棟の有効再利用計画を実施した。学舎検討委員会により大学院生の学習・研究環境整備の現況調査を実施した。	・施設 ・E棟再配置計画書
・人間科学研究センターの廃止に伴うE棟の再配置計画の作成と実施(H16-17)(発達科学部)		人間科学研究センター廃止に伴いE棟の有効再利用計画を実施した。	・E棟再配置計画書
2 安全管理に関する目標を達成するための措置 ・「発達科学部安全管理マニュアル」を継続的に発行し、学生実験における安全を管理する。(H16-)(発達科学部) ・学生実験における取り扱いマニュアル、指導マニュアルを充実し、それに基づく指導を行う(H16-)(発達科学部) ・有害物質及び放射線等の管理体制の強化を図る。(H16-)(発達科学部)		安全衛生委員会作成の「発達科学部安全管理マニュアル」を学生に配布して、周知・徹底を図っている。教授会でも周知・徹底。 安全衛生委員会作成の「発達科学部安全管理マニュアル」を学生に配布して、周知・徹底を図っている。教授会でも周知・徹底。 廃棄物処理費を計上して、計画的に有害物質を除去していくとともに、放射線等の管理についても適正な管理を徹底している。	・「発達科学部安全管理マニュアル」 ・「発達科学部安全管理マニュアル」 ・教授会資料
3 環境保全に関する目標を達成するための措置 ・環境管理委員会(旧廃棄物処理委員会)による検討の上で具体的な施策を講じる。(H16-)(発達科学部)		環境管理委員会(旧廃棄物処理委員会)にて検討し、不要化学薬品を整理し、平成17年7月13日、同年11月28日にそれらの処理を業者に委託した。	・教授会資料
その他の重要計画			
1 大学支援組織等との連携強化に関する計画 ・同窓会「紫陽会」との連携強化を図る。(H16-)(発達科学部)		同窓会評議員会、大阪、神戸、姫路支部総会への参加の他に、日常的に連絡を図っている。	